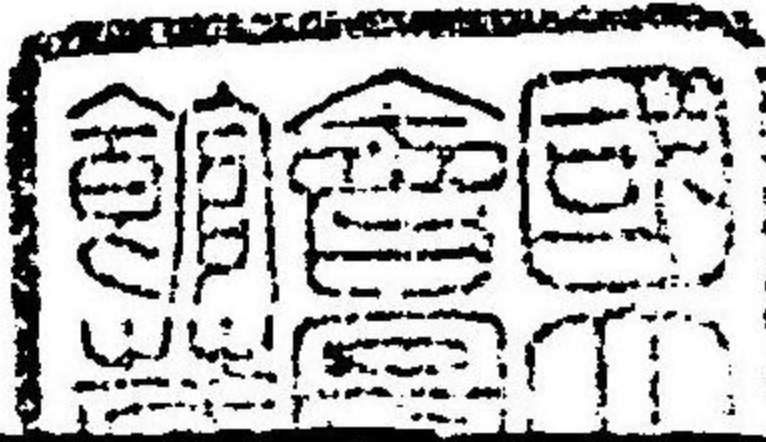


神楽文

申

911.62
Ta 943 ke

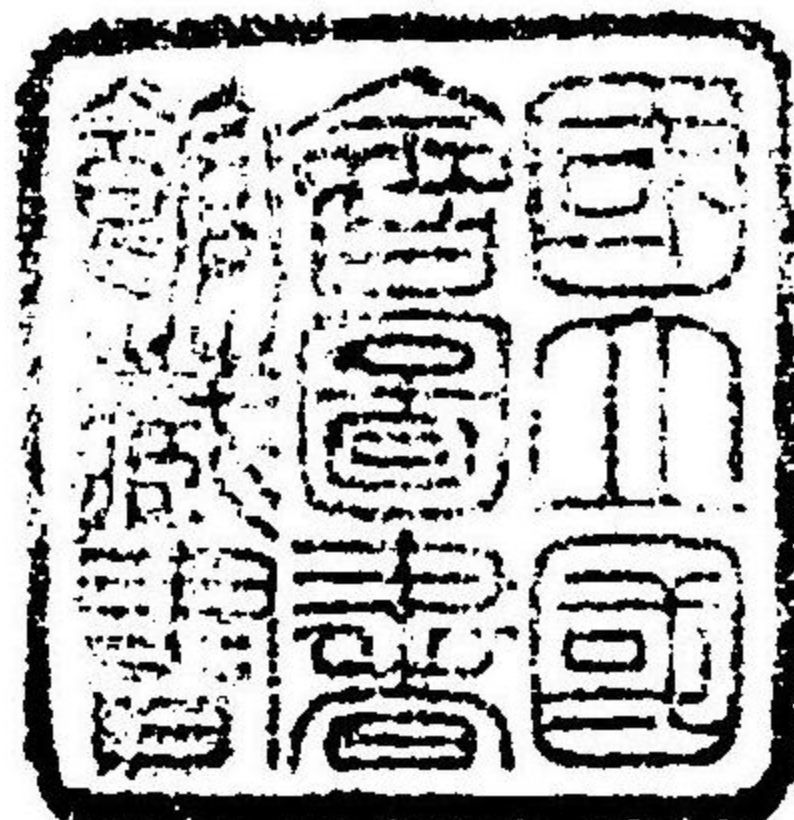


神樂歌入文卷中

採物上次

福守邦撰出

神代紀下^{タカミムスヒノミコトヲマドコオフスキセツリ}一書曰高皇產靈尊以真床^{マコトノ}寢^ネ衣^イ畏^{オソ}天津彦彦^{アマノヒコヒコ}國^{クニ}光^{ミツ}
 彥^{ヒコ}火^ヒ瓊^ユ杵^キ尊^{ノミコト}引^{ヒキ}開^{アケ}天^{アメ}磐^{イハ}戶^ノ排^{オシ}分^{ワケ}天^{アメ}八^{ヤチ}重^{カサ}雲^{クモ}以^{ヨリ}奉^{オホ}降^シ之^ノ
 于時大伴連遠祖天忍日命^{オホトモノミコト}自^{ヨリ}部^ベ速^{ハヤ}祖^{ノミコト}天^{アメ}穗^ホ津^ツ大^{オホ}來^キ
 日^ヒ背^セ負^ネ天^{アメ}磐^{イハ}鞞^ノ臂^{ウデ}著^キ稜^{リョウ}威^イ高^{タカ}鞞^ノ手^テ捉^ト天^{アメ}梶^{カキ}弓^{ユミ}天^{アメ}羽^ハ矢^ヤ及^キ
 副^{ツク}持^リ八^{ヤチ}目^メ鳴^ネ鏞^ノ又^{マタ}帶^{オビ}頭^{カブ}植^{ツキ}劍^{ツルギ}而^{シテ}立^タ天^{アメ}孫^{ノミコト}之^ノ前^{マエ}遊^{ユキ}行^ク降^ル來^リ
 云云^{ト云フ}天^{アメ}鹿^カ見^ミ弓^{ユミ}天^{アメ}真^{マコト}鹿^カ見^ミ矢^ヤ云云^{ト云フ}
 此^{コノ}弓^{ユミ}及^キ此^{コノ}矢^ヤ皆^{ナラ}孫^{ノミコト}之^ノ天^{アメ}降^ル也^{ナリ}時^{トキ}持^リ以^テ之^ヲ
 以^テ之^ヲ最^{モト}重^{カサ}武^ブ器^キ也^{ナリ}今^{イマ}取^{トル}用^フ以^テ之^ヲ



112411

とき尾羽張ハ末の張て廣きとき今世ニ云々太刀作リと劍作リと
 乃差ナリ俗末の細き物と尖ると云是より出する細ナリ
 又須我流横刀之大神宮神寶に圖式ふして柄の飭螺巖と
 てきしてたる故ふ稱へたる名色又都流岐の名義ハ萬葉ふ劍と
 も大刀とも劍之太刀とも連するを認めたる刀は稱へるふ
 七釣佩の物と云ふも九巻は掛佩大刀とも云ふなり
 大刀劍はるるも記紀歌釋も委く弁へたればこれに考ふるも
 して劍も弓にほぐる武器なりけれハ昔に多く細る例りて採
 物ふしとれりよ
 本
 ころころのやうなものをいふはさきさきの都と云ふは
 わりきたがよ

目

鈔云はるる捨き葉汁まはとれり○ころころのやうなものをいふは
 椀之銀之目貫太刀也空穂物語ふさつねのやうなものをいふは
 注たやうなものをいふはさきさきの都と云ふは
 合せられハ古くハ目貫と重りせし也今世の流るる物の肝要なる
 処と目貫と云ふは源平盛衰記も目貫の釘目貫の穴も
 もりり大神宮式も鑰の柄の中に花形目貫在ると云ふは
 是れハ本ハ其穴をさしにこそ名義ハ太刀の中心へ穴を穿
 してはあまらハ鉄柱を穴へ貫くこと目貫ハ云々といふ
 是と理をさしはるる古きさつね其次と指てはるるは
 是れも釘と云ふ釘の上飾りとも云ふは○ころころといふは
 此ころ古注釈ふし今椀之次の手組の緒垂ると云ふは

天皇畏^テ菽^ヲ不見^レ却^テ入^リ殿中^ニ使^シ放^シ於^テ岳^ニ仍^{シテ}改^メ賜^ハ名^ヲ為^ス雷^トと
ありて是^レハ握^ル捕^ルしつゝなれば太^ク刀^ノ因^リて仁^徳紀^六十
七年十月是^レ歲^ニ於^テ吉^備中^國川^鳴河^派有^リ大^蛸令^シ苦^シ人^ヲ於^テ
是^レ望^シ臣^祖縣^守為^リ人^勇悍^而强^力臨^派淵^舉劍^入水^斬蛸^也
更^求蛸^之黨^類乃^諸蛸^族滿^淵底^之岫^穴悉^斬之^河水^變
血^故号^其水^曰縣^守淵^也とありて是^レハ淵^とりん^劍と云^ふ
れハ彼^萬葉^ナ々々^之此^劍を欲^得に^しり又^今此^のら^うと
万^葉の古^屋ふ由^りり^つと^は昔^のゆき^の故^事あり^りと
○く^つの^もと^を先^注釈^まし^今按^ふく^つハ^か組^新羅^組な
り^て備^系と^組合^へる^名也^はも^と組^系と^本刀^は結^みら^る
る^かと^そハ^其と^結無^ん也^之代^文源^貞觀^十六^年檢^非違

使^リ請^ふ依^テ横^刀之^緒五^位已^上同^用唐^組六^位已^下並^用
綺^新羅^組等^と定^りれ^るゆ^え大^神宮^式神^宝玉^經
横^刀一^柄云^々著^五色^組長^一丈^阿志^須惠^組四^尺須^我
流^横刀^一柄^云々^雜作^横刀^二十^柄云^々阿^志須^惠著^緋
緋^帛緒^長九^尺廣^二寸^{五分}是^と以^テ其^凡と^知べき^{なり}
○之^の緒^かけ^今按^ふく^之備^馬樂^貫河^ふり^く云^々按^ふく^之
別^{あり}皇^都大^道を^云なり

一^首の^まを^さ丈^八寸^五分^とさ^るゆ^え人^の太^刀も^づれ^あら^し
組^の緒^と無^し長^く下^佩て^官子^大路^とあ^らし^ふなり^り
或^説

本
い^んこ^し珠^ハち^りけ^ちり^ハく^のも^とを^さび^あら^はき

なり。かくてその神社と墓所と一つにたがひあはれり。且ハ墓ハ
きざりてふよらとて御意の鎮ありけり。きざりてふよらとて
は、りていひて通うべきものなり。きざりてふよらとて
詞ハ大カにいひていひていひて也。(アタシキ言ヒカケ)

鉾

和名抄曰。楊雄方言云。戟或謂之干。或謂之戈。和名保古。又
和名云。子戟。曰。保人所持也。字亦作鉾。和名天保古。云。此
梓之。二神國修理の法時。天沼矛と賜はりて。事終りて。始
免。皇御孫尊の天降は。口。銜しりて。最貴き兵物なれば。

神ふも然る也。續紀ニ。大寶二年夏四月。秦忌寸廣庭。秋
和谷樹八尋梓根。遣使者奉于伊勢大神宮。倭姫命。世記
云。日本建尊。比々羅木乃以八尋鉾根。天奉獻皇大神宮。留
此外儀式帳亦多く見え。又祝詞ふハ。諸社ふ奉るも見えり。
其中ふハ中臣壽詞云。茂槍乃中執持。豆奉留中臣。りて云るも。
則此採物と取る形容より出りし序辭也。さて此梓の名義と昔
よりいひていひていひて。皆當り。今按ふ。此名ハ。秀遣の約れり言
也。秀とて身は長く物より秀也。今ハ鎗の秀とてへ。稻
乃穂薄也。穂より云ハ。本ハ。一つなり。遣ハ。令遣也。突遣
と云。此物を。及せに夜利と名づけり。即女事也。崇神紀十
八年。豐城命云。向東而八廻弄槍。八廻擊刀と云るも。槍を八

ウタオロシ
モロアケ

① 片折

古事記下、允恭段より夷根之片下と云あり。傳曰、片下ハ上の尻上哥上哥
乃上と相照して心得し。上も下も、こゝ音根と以て云也。片と云、三音の
哥と片哥と云はく、本にまれ、末にまれ、片と下して、こゝの音根をいし。
諸舉と云き、相對して心得し。古き東遊、諸ふ先ツ二哥、次、駿河舞、次、
氷子、次、加太、於呂之と有り。夫木集、二寂蓮法師、を長きつゝ、きき、おの奥
乃ねぬふまわ、鼓のつゞり、こゝる、こゝる、片折ハ片下と云せし、云云。
今按ふ、此、説は、こゝる、こゝる、哥の上句、下句、は、おの、おの、樂の左右、上下と
云はり。こゝる、こゝる、こゝる、に、并ぶべし。
本
おの、おの、おの、せ、おの、おの、の、こゝる、
末、おの、おの、おの、おの、の、おの、
わづら、の、おの、おの、おの、の、おの、

天治本ふし、おの、おの、下、こゝる、文治、節付にハ、此、哥と記さるれ
おの、古本を、皆、此、折、こゝる、と、記れ、抄、本、ふ、おの、おの、の、おの、と、漏、せ、る。
かゝる、かゝる、抄の、歌、云、片折と云ハ、歌曲の名也。拍の、おの、おの、りて、
せ、おの、おの、おの、板井、や、り、おの、おの、と、おの、と、おの、と、おの、と、
按、おの、おの、の、おの、おの、右の、おの、と、本、おの、おの、おの、に、諸、おの、上、
おの、おの、おの、方、に、て、も、一、方、おの、と、下、て、おの、おの、おの、おの、と、
おの、おの、おの、

② 諸舉

記傳曰、上歌云、神樂採物ふ、諸舉と云有、上、後、舉、哥、と云有、
下、片、下、と云、おの、おの、云、此、音、相對、て、右の、おの、と、おの、
入、云、宣、長、云、片、下、ハ、上、句、下、句、の、内、一、方、と、下、て、おの、おの、
おの、おの、おの、おの、

齋機の義ちまゝ、既ふ上巻、神舟に云ふごとし。考注、疾の如
 く修りてと云ふ。みづつらひしは、修りてと云ふ。こゝちが
 うらふね、かく織しを用以也。○かゝるまきせんは、抄に
 かゝるまき、未詳たぐへ、神をさすも、神をさすも、さすも、
 とまき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 かゝるまき、神優の、字支を、まき、まき、まき、まき、まき、
 清暑堂は、御神樂の時ふ、長う、枯たる、夜を、おき、あり、まき、
 枯疾と云ふ、一、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 かゝるまき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 の、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、

末
 萩せんやとく、長う、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 かゝるまき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 かせんや。

○ヤムらび、抄に、八枚の平盤也。柏の葉ふて、は、神供を
 しまつ物也。考に、八枚、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 串を、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、まき、
 神武紀、作、葉盤八枚、盛食、郷食之、葉盤、此、云、畏、羅、耐、大
 嘗祭式、凡、供、神、御、雜、物、者、大、膳、職、所、備、多、加、須、伎、八十枚、
 高、五寸五分、口、徑、七寸、無、蓋、折、足、四、所、並、居、葉、椀、覆、以、笠、形、
 葉盤、一、似、笠、形、以、木、綿、結、垂、装、飾、比、良、須、伎、八十枚、高、及、口、徑、

ヤウチウレン 枯朽徳もなきやまゝと尚る也。
一者のそらそ、かくお綿垂て、いひあうし、いひ、昔の幸ひいふ
し、て、かれくら、強き、き、て、強き、あ、の、つ、て、き、れ、う、と、田
作、る、民、の、い、の、つ、て、う、る、也、き、て、い、て、き、う、い、し、。

前張

◎

本
まゝい、て、い、に、こ、ろ、と、は、そ、う、し、あ、う、れ、ど、あ、う、れ、ど、。

末
あ、う、れ、ど、う、ら、い、か、し、う、つ、く、ま、う、て、い、い、う、く、ま、う、て、い、い、
抄、曰、は、ま、か、き、集、録、果、ま、と、い、れ、る、○、ま、い、づ、り、に、ま、い、ま、い、抄、云、
ま、い、づ、り、ハ、初、葉、也、ま、い、づ、り、ハ、前、也、前、ハ、初、と、云、心、也、考、曰、ま、い、づ、り、
ま、い、づ、り、ハ、ま、い、づ、り、と、い、ふ、う、ら、い、て、椿、の、ま、い、づ、り、と、い、ふ、ま、い、づ、り、と、い、ふ、
ま、い、づ、り、ハ、芽、子、の、ま、い、づ、り、と、い、ふ、ま、い、づ、り、と、い、ふ、ま、い、づ、り、と、い、ふ、今、按、ふ、

茶ト
椿ト
別也

万葉ふ。椿字も。芽子に傳へて、アチシ。昔衣に扱へる、アチシ
て、傳へ、ハ、し、く、け、ろ、れ、ど、椿、と、芽、子、と、を、本、より、別、也、其、ハ、い、づ、ら、を、
既、ふ、録、の、卷、二、卷、九、下、ふ、し、中、へ、又、万、葉、歌、一、卷、引、馬、野、の、歌、に、下、ふ、し、ま、
く、ま、い、づ、り、と、い、ふ、い、づ、り、と、い、ふ、者、あり、扱、衣、ハ、天、武、紀、赤、鳥、元、年、正、月、條、ふ、茶、
扱、御、衣、三、具、類、聚、國、史、延、暦、十、八、年、正、月、賜、蕃、客、以、上、茶、扱、衣、云、云、
此、外、三、代、實、錄、光、孝、天、皇、仁、和、二、年、十、二、月、下、又、鎮、魂、祭、儀、御、巫、云、云、
下、ま、い、づ、り、踐、祓、大、嘗、祭、式、下、等、ふ、あ、ま、い、づ、り、と、い、ふ、又、漢、書、云、ハ、延、喜、式、等、ふ、
又、ゆ、僧、尼、令、ふ、し、茶、柴、椽、墨、如、此、く、属、當、色、以下、各、兼、得、服、之、云、
云、と、い、ふ、し、扱、衣、伐、株、の、孫、生、の、盛、ち、る、若、葉、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、皮、木、の、
扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、
扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、扱、衣、と、い、ふ、

傳るまかなれ。考ハハ、宇伊ハ拗音、重合の音なれば也。程く考へてよ。
 猪名、湊ハ、海國豊嶋郡ふて、行囊抄ハ、林岫、長洲、猪名、湊とほいづく
 云、林岫ノ馭ノ南ヲ、長洲、濱ト云、名所也。猪名、湊ハ、長洲ニ並テアリ也。
 〇あつぞ、抄云、歌曲のふりてけり、と義なきや。考注も
 同之。今按ふ抄本は、そちひぞひれど、天治本ハ、安以、第、かき、これハ
 くれハ、古本と正しや、んき、なり、言のまを、り、嗚呼、吉ぞと云
 褒言を、音便ふ約て、る、か、ん、し、拍子、河、か、ん、し、言の、心、を
 かく、有、り、〇り、船の、古老、船人、手記、西、凡、ノ、井、ハ、長洲、濱、ノ、沖、ワ、ロ、シ
 凡、ツ、ヨ、カラ、バ、猪名、湊、ニ、カ、ル、レ、〇、万葉、七、丁、大、海、ふ、あ、し、れ、ふ、さ、さ、〇、長、島、居、名
 之、湖、亦、ふ、ね、と、り、ま、〇、か、ぢ、ふ、く、り、〇、抄、云、凡、ふ、り、せ、〇、
 執と云ふや。考、四、か、ち、さ、く、執、ま、る、也、今、按、に、船、人、の、言、と、す、

ふ、概を平らに執るも、さ、さ、り、と、さ、り、〇、田、ふ、自、他、の、心、の、
 る、や、ふ、か、し、め、く、と、ほ、れ、〇、さ、お、か、し、め、く、
 今、按、ふ、か、く、ま、て、船、傾、う、も、勿、と、云、を、れ、又、危、く、思、い、〇、船、ノ、
 て、か、し、ぶ、く、れ、と、今、ま、る、ふ、も、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 此、処、法、ハ、前、ま、ら、り、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 云、その、若、草、ハ、愛、う、く、し、ま、る、〇、夫、婦、ふ、た、く、り、今、按
 〇、仁、賢、紀、云、弱、草、吾、夫、何、怜、矣、古、者、以、弱、草、喻、夫、婦、故、以、弱、草
 為、夫、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 た、く、な、ら、せ、也、凡、て、物、の、二、つ、對、ハ、都、麻、と、云、ハ、衣、の、裾、袖、の、
 軒、の、つ、又、妻、産、苦、の、數、り、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
 づ、ま、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、

・サイタツク

